

令和6年度 東海大会 3日目コース 予報

<コース>

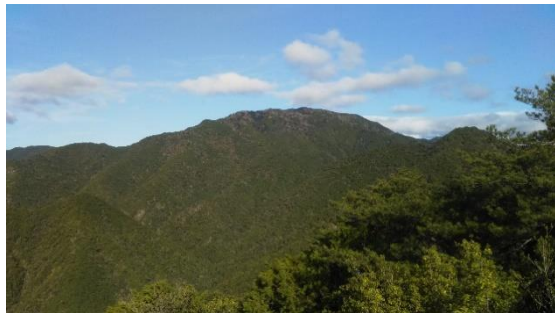
モリトピア前 (S2) → Aキャンプ場東尾根登山口 → 東尾根展望台 →
シュートン分岐 → 明治百年記念広場 (CP4・監督合流) → モリトピア前 (G2)

宿泊施設のモリトピア前 (S2) がスタートである。橋を渡り、北【左】に折れるとAキャンプ場があり、すぐ左手にすぎの木センター (写真右) が見える。その向かい側にシャクナゲ尾根への登山口がある。常設テントの間を縫うように登っていく。そして、キャンプ場を後にして、高度を上げていく。尾根に出ったら、「シャクナゲ自生林」のある東【右】に折れる。その先の木のハシゴは少し朽ちているところもあるので、慎重に足を運ぶ。



やがて、シャクナゲ北尾根と出会う。ここからの下山道は、荒天時ルートの一つである。このように、愛知県民の森には多くの道が整備され、エスケープルートが豊富にとれるので、多様なコース設定ができる。

この先にはホソバシャクナゲの自生地があり、5月にはピンクの美しい花が咲く。その名のとおり、葉の形は細長く、枝先に集まってつき、葉裏は褐色の綿毛が厚く密集する。ホソバシャクナゲは静岡県西部から愛知県東部にかけてのみ分布するので、よく観察してほしい。やがて、アップダウンが続き、



手すり代わりに鉄鎖の付いている岩稜を登っていく。しばらくすると、中尾根に出会う。中尾根から赤木沢を下る道も荒天時ルートのひとつである。その先には東尾根展望台がある。ここから見える県民の森全体のパノラマはおすすめである。昨日歩いた西尾根を見渡すと、その北側に、新城 (しんしろ) 市と設楽 (したら) 町にまたがる宇連山が見える (写真左)。

ここから少しザレた道を下り、ひたすら進む。その先まで続いている東尾根は小ピークで北尾根につながる。境目は「←北尾根/東尾根→」の白い看板である。なお、今回のコースではないが、この看板付近には地図上に無い分岐が存在し、そちらを進むと、鳳来湖が一望できる上臈岩にたどりつく。岩場が多いため、やや危険ではあるが、再び県民の森を訪れる機会があれば、ぜひ堪能してほしい景色である。

北尾根に入ると、シュートン沢分岐まではほぼ下りである。やがて平らになり、やや登り気味になったあたりが分岐である。ここを南【左】に折れると、つづら折りの下り道で、手すりの付いた階段になれば、管理道路まではあと少しである。管理道路を歩くとスギ品種展示林があり、さらに下ると大津谷林道と合流する。橋を渡ると、明治百年記念広場 (CP4) があり、ここから監督と合流してパーティー行動となる。

大津谷林道をしばらく進むと、県の木展示林があり、各都道府県の木が植林されている。岐阜県はイチイ、三重県は神宮スギ、静岡県はモクセイ、そして愛知県はハナノキである。

大津谷橋を渡り、大芝生広場、キャンプファイヤー場の横を進み、不動滝を過ぎると程なくゴールのモリトピア前 (G2) が見えてくる。